

♪ 宗次ホールおすすめ公演情報 2017年11月♪

チケットのご予約は 宗次ホール チケットセンターへ 052-265-1718

寒くなって参りました！ 今月も様々な演奏会をご用意してお待ちしております。また満席公演も既に多数ございますので、お問い合わせの上お越しください♪

11月15日から12月27日までは恒例のギフト券キャンペーンを開催いたします！ ギフト券10枚ご購入につき3枚のプレゼントチケットがおまけにもらえるのが最大の特典ですが、実はもう一つ、これがお手元があればチケットの『当日取り置き』(※)が可能になるというメリットも。支払いの期限を気にせず当日窓口でチケットを受け取れるのは便利です。詳しくはお問い合わせ下さい♪

【文責：宗次ホール企画担当 廣田 政子(ひろた まさこ)】
※一部例外もございますのでご注意ください。

リコーダー・マニアが、その静かな喜びに
身震いする…！ 分析なんか必要ない、
ただ音楽の喜びを享受するんだ…！

(ファンファーレ誌/米)

ミカラ・ペトリ リコーダー

西山 まりえ チェンバロ&バロック・ハープ

11月13日(月)18:45開演 4,500円(学生2,700円) [指定]



誰もが耳にしたことがあり、学校の音楽の授業でも教わる事の多い楽器、リコーダー。ですがプロのリコーダー奏者の演奏を耳にすれば、きっとこの木製の管から出る音の素晴らしさに驚くはずです！

3歳でリコーダーを始め、

天才少女と言われたペトリさん。リコーダーこそが一番身近に感じる事が出来、自己を自由に表現できる楽器なのだと言います。コンサートでは様々なサイズのリコーダーが使用されますが、メインで頻繁に使われるのはアルト、ソプラノ、ソプラニーノの3種類。一番大きいアルト・リコーダーは特にバロック期のレパートリー用。ソプラノ・リコーダーは皆さんも学校で習ったサイズ。3つの中で最小のソプラニーノはアルトより1オクターブ高い音が出ます。他にもテノール、バス、サブ・グレート・バスなどなどリコーダーは多種多様。最大のものなんと182cmもの長さを持ちます。

リコーダーはとってもシンプルな楽器。言うなれば、木の筒に8つ穴が開いているだけ。「練習している時に、突然自分の音が、オモチャの笛の音のように聴こえる事があるのよ。そうすると焦って良い音を模索して練習し続けるわ。反対に、このシンプルな木の固まりからヴァイオリンやクラリネット、オーボエの音色が聴こえてくることもあるの。それこそが正しい音よ」とおっしゃるペトリさん。シンプルなのに奥が深いということでしょう。

そんなこの楽器の可能性を拓ける為に、ペトリさんは様々

なことに挑戦し続けてきました。その一つが、他の楽器の為に書かれた作品を、リコーダー用に編曲して演奏すること。リコーダーは、例えばオーケストラの中に参加していないことからわかる通り、バロック時代が過ぎるとコンサートの主役ではなくなってしまいました。よってそのレパートリーも限られたものになってしまいます。そこでペトリさんは、例えばモーツァルトのフルート四重奏曲やグリーグの抒情小曲集をリコーダーで吹いてみたり、ジャズ・ピアノの巨匠キース・ジャレットと共演したりと、常にリコーダーの可能性を広げる活動をしてきたのです。

例えば同時代の作曲家との共同作業もその一つ。現代音楽といえどどの楽器においても斬新な新しい奏法を加えることが特徴のひとつですが、ペトリさんもリコーダーでの重音(一度に、2つ以上の音を同時に鳴らすこと)の演奏をはじめ、息のスピードによって音の高さを変化させ、スピードを絶妙に変えることによってグリッサンド(一音一音を区切ることなく、隙間なくなめらかに滑らせるように音高を上げ下げする技法)なども可能にしてきました。その他にアンコールでは、時々サプライズで2本のリコーダーと一緒に吹きながら、歌も同時に歌ったりすることもあるそうです！「酸欠になるかと思うわ！(笑)」と笑いながらお話すペトリさん。世界一有名なリコーダー奏者の挑戦の日々は続きます。

その深い音と色彩、
技巧的な作品に於いてもその演奏はあくまでも優雅
決して失われることのないエレガンスは
作品の内に秘められた本当の美しさをあぶりだす

(グラモフォン誌/英)

アントニオ・メネセス チェロ

田村 響 ピアノ

11月18日(土)18:00開演 4,500円(学生2,700円) [指定]



名チェリスト、アントニオヤニグロに見いだされ、故郷ブラジルから渡欧。そしてミュンヘン、チャイコフスキーの両国際コンクールで優勝し、一躍世界的チェリストとして知られるようになったメネセスさん。最初はホルン奏者であった父親の勧めでチェロを始めたそうです。彼の故郷ブラジルではオーケストラの弦楽器奏者が足りておらず、父は息子たち全員に弦楽器を弾かせました。その夢が叶い、メネセスさんと4人の弟達は、今でも全員弦楽器奏者として父親がかつて在籍していたオーケストラで演奏を続けているそうです。

メネセスさんの言葉を調べてみると、含蓄に富んだものが沢山見わかります。例えば「全ての作品には心があり、訴えようとしているテーマがある。私達演奏家にとっては、作曲家がこの曲を通して何を表現しようとしているのか見つけ出すこ

と、それを説得力をもって、自分だけの方法で伝えることが一番の挑戦。そしてその日聴いた音楽を、聴衆の皆様が家に帰っても心に抱き続けてくれたら、こんなに嬉しいことはない」などは音楽家を目指す若者の心にぐっとくるのではないのでしょうか。

若い方への言葉、という意味ではこんなことも言っています。「もし、学生時代の自分にもう一度出会えるとしたら“もっとピアノを練習しろ”って言いたいね。僕も学生時代、試験を通過できる程度にはピアノを練習したけれど、もっとすればよかった。どの時代も、素晴らしいチェリストはピアニストとしても優れた人が多かったんだ。作品の質感について感じたり、またバッハ作品に於いて複数声部の掛け合いを深く理解するためにはピアノが本当に役に立つ」と。そういえばメネセスさんと共演するピアニストはプレスラーやピリスなど本当に世界的な名手がゴロゴロ…。今回は地元安城市出身でロン＝ティボー国際コンクールの覇者である田村響さんとの共演です。

NHKドキュメンタリーで反響を呼んだ“左手のピアニスト”と狂言役者の語りのコラボレーション！！

前回の「銀河鉄道の夜」に続く第2弾は江戸時代の絵師の戯画版「イソップ物語」

智内威雄 ピアノ・**善竹隆司** 朗読

11月19日(日)15:00開演 3,000円(学生1,800円) [指定]



画家と音楽家の両親の元に生まれ、子供の頃から音楽を伝えることに喜びを見出していた智内さん。ドイツに留学し、国際コンクールへの入賞も果たすなど、順調なキャリアを築きはじめた時に、突然親指が動かなくなります。それをかばって酷使するうちに3ヶ月後にはドレミも弾けない

程の症状に。診断の結果は「局所性ジストニア」。筋肉に硬直が起こる難病でした。それから毎日5時間以上に渡る熱心なリハビリのおかげで、2年後には日常生活に支障のないところまでは回復。「リハビリの苦しさに堪えられたのは、自分が良くなりつつあるわずかな“かけら”を見つけたことができたから。」ピアノも少し弾けるようにはなりましたが、プロのレベルにはほど遠いもの。「この頃は自分自身とじっくり向き合い、ピアニストとは何か。音楽家の役割は何か。といったことを考えました。そのような時間が今に活きているのは間違いありません」と振り返っています。

しかし諦めずに左手用のレパートリーに取り組み始めた智内さん。戦争で右手に障害を負ったピアニストや周辺の音楽家たちによって生み出された左手のための楽曲に触れるうちに、自分と同じように諦めなかったピアニスト達の作品を世に送り出すことを自分の使命と感じるようになります。

「一見すると、左手でしか演奏できないことは弱点かもしれませんが。指が5本になるのですから、一度に出せる音は半分。でも、口数の多い人より少ない人のほうが人の心に届くメッセージを発することがあるように、音の数が少ないほうが、ピアニストの本質そのものが浮き彫りにされます。無駄のないシン

プルな音色だからこそ、一つひとつの音に重みがあり、聴く人の心を揺さぶることができる」と話す智内さんが、このところ熱心に取り組んでいるのは、演奏と朗読のコラボレーション。2015年の9月には宗次ホールでも宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」の朗読と、作曲家川上統(おさむ)さんに委嘱した組曲のコラボを上演。この川上さんの曲が作品に流れる透明感と見事にマッチして、極めて美しくファンタジックな舞台作品となっていました。



さて今回のイソップ物語。善悪を教えるような教訓的なお話を幼少期に読んだ方も多いと思いますが、「胃袋と肢体の話」や「乳母と狼の話」など、タイトルをみただけで何か怖そうなものもあれば、“誰が猫に鈴をつけるのか”で話が止まってしまったという風刺の効いた「ネズミの会議」のようなもの…。左の絵がまさに会議中の鼠たちですが、これを描いたのは幕末の

絵師で「画鬼」の異名をとった河鍋暁斎(かわなべきょうさい)。この演奏会では、河鍋が描いたイソップ物語に題材をとった戯画の投影もお楽しみください。そして音楽は「銀河鉄道の夜」の時と同じ、川上統さんです！お楽しみに。

紙面が少なくなって参りましたが、

11月21日(火)18:45開演 ¥4,000(学生2,400円) [指定]

アンドレイ・バラノフ ヴァイオリン

も絶対おすすめ！

2011年にひょんなことから宗次ホールに来演して以来、あれよあれよという間に世界的ヴァイオリニストに成長したバラノフさん。昨年1月には彼が率いるオイストラフ・カルテットでアツイ演奏を披露してくれましたが、今月は久々のソロ。そしてピアノは、伴奏者としても高く評価されている彼の妹、マリア・バラノヴァさんです！（ロシア語では男性と女性で、同じ家族でも苗字が変化します。）2012年エリザベート王妃国際コンクールを1位制覇した時にも演奏したプロコフィエフのソナタ第2番をはじめ、「ツィガーヌ」や「悪魔のトリル」といったとても楽しいプログラムです♪

そしてスイーツタイムコンサートでは

11月27日(月)13:30開演 ¥2,000

高橋多佳子 ピアノコンサート もおすすめですよ！

ベートーヴェン「悲愴」、ショパン「舟歌」、そしてラヴェル「ラ・ヴァルス」と、ピアノファンでなくとも必ず楽しめる名曲中の名曲ばかり！特に、前回ギフト券セットをお買い求め頂いた方はその際についてきた“プレゼントチケット”の有効期限は年内いっぱいです。もしお手元に2枚残っていたら、スイーツタイムコンサートに1名様無料でご入場頂けます！ぜひ期限内に有効活用していただき、お得に演奏会をたくさんお楽しみください♪

●記載公演いずれもチケットございます！●
チケットのご予約・お問い合わせは
宗次ホールチケットセンターへ
☎ 052-265-1718